

Round 3



Outline

笹原とアレジが攻めの走りで、初ポールポジションを獲得。ライバルの猛追を振り切り、悲願の今季初優勝を果たす。

2024 AUTOBACS SUPER GT Round3 SUZUKA GT 3Hours RACE が、6月1日～2日に三重県の鈴鹿サーキットで行われた。#37 Deloitte TOM'S GR Supra (笹原右京 / ジュリアーノ・アレジ) は、予選でポールポジションを獲得すると、3時間で争われた決勝レースでも終始力強い走りをみせてトップチェッカー。2人にとって悲願の初優勝を飾った。



Information

circuit	鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市)	
date	6/1 sat	6/2 sun
weather	晴れ	晴れ時々曇り
spectators	42,500人 (sat 17,500人 + sun 25,000人)	

SUZUKA

Result

37

Car



Deloitte TOM'S GR Supra

Driver


 笹原 右京
Ukyo Sasahara

 ジュリアーノ・アレジ
Giuliano Alesi

	予選	決勝	Driver Rank	Team Rank
	1位	1位	3位 27points	3位 32points

予選 Q1	笹原 : P1 / 1'45.434
予選 Q2	アレジ : P3 / 1'46.439
決勝 ファステスト ラップタイム	笹原 : 1'49.687 アレジ : 1'50.507

予選

●天候：晴れ ●気温：26℃ ●路面温度：45℃



Qualifying detail

公式練習からの好調さを維持し、予選では笹原とアレジが攻めの走りで初のポールポジションを奪う。

前戦ではポイントを獲得できず終わった37号車。そこでの反省点を踏まえ、マシンのセッティングを見直して鈴鹿大会に臨んだ。朝から晴天に恵まれたなかで行われた公式練習では、笹原とアレジが力強い走りを披露。最終的に1分48秒836を記録し、トップから0.004秒差の2番手でセッションを終え、良い手応えを掴んだ。

午後の公式予選では笹原がQ1を担当。コース幅をいっぱいに使った攻めの走りでタイムを更新していき、1分45秒434で2番手以下に0.226秒の差をつけてトップタイムを記録した。続くQ2ではアレジが出走すると、スプーンカーブの出口で走路外走行寸前のところまで攻め込むドライビングを披露。1分46秒439で3番手タイムとなったものの、合算タイムではライバルを上回り総合トップに。2人にとって初のポールポジションに輝き、37号車としてもDeloitteのカラーリングとってから初めての予選トップを記録した。

After Qualifying



クルマとタイヤが最適だった。とにかくチームに感謝したい。

ドライバー 笹原 右京

昨年も予選Q1でトップタイムを記録したことはありましたが、なかなか思い通りのパフォーマンスが出せず、結果に繋がらない時期が続きました。今回、チームがクルマを見直してくれたおかげですごく良くなっていました。あとは僕たちがミスなくアタックするだけだと思っていました。



本当に『嬉しい!』の一言。みんなに感謝しています。

ドライバー ジュリアーノ・アレジ

朝の走行ではロングランがメインで、予選を想定した走行をしていなかったのが不安はありましたが、クルマの調子が本当に良かったので、僕もやれるだけのことはやろうと思いました。スプーンカーブの2つ目はギリギリでしたけど、ポールがどうしても欲しかったので攻めていきました。

TGR TEAM Deloitte TOM'S 37



ミラクルのような一日。全てが完璧でした。

チーム監督 ミハエル・クルム

前は非常に苦戦しましたが、そこからみんなが一生懸命頑張ってくれました。その効果が朝の走行から表れていましたし、タイヤの選択もうまくいってました。ドライバーの2人もミスなく良い走りをみせてくれたし気迫を感じました。本当に素晴らしい一日だったと思います。



ドライバーとチームが、良い流れで進んでいきました。

レースエンジニア 大立 健太

今回はベースセッティングで進めていったことが全体的に良い方向に向かいました。ドライバーの2人もすごく乗っていて、笹原選手のQ1トップに続くように、ジュリアーノ選手も良い走りをしてくれました。その結果ポールポジションを獲得することができました。

決勝

●天候：晴れ時々曇り ●気温：24℃ ●路面温度：31℃



Race detail

中盤にライバルの猛追を受けるも、全員がミスのないレース運びを披露。笹原とアレジが悲願の初優勝を飾る。

決勝レース前のウォームアップ走行では雨によりウエットコンディションとなったが、その後に天候が回復してドライコンディションでレースが始まった。ポールポジションの37号車は笹原がスタートを担当し、後続に対してリードを築いていく。1時間が経過した33周目に最初のピットストップを行い、笹原が第2スティントも継続したが、クルマに小さなトラブルが発生した影響でペースが上がらず、2番手のライバルが背後に迫る展開となった。

ポジションを守りきって残り1時間を迎えた60周目にピットインしアレジに交代。ライバルの先行を許したものの、そのチームがペナルティを受けたため、37号車は再びトップに返り咲いた。アレジは安定したペースで周回を重ね、92周でゴール。ドライバー2人にとってはGT500クラス初優勝となったほか、37号車としては2022年Round4以来となるトップチェッカーを受けた。

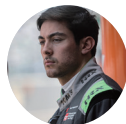
After Race



最後は祈るような思いで応援していました。

ドライバー 笹原 右京

『いつ勝てるのだろうか』と思う時もありましたが、自分たちを信じて頑張ってきて良かったです。1スティント目は予想以上にうまくいきましたが、2スティント目は小さなトラブルが発生して苦労しました。何とかトップを守りきってジュリアーノにクルマを託すことができました。



今回は全員がミスなく、クルマをゴールに運べた。

ドライバー ジュリアーノ・アレジ

ピットでドライバー交代を待っていた時は緊張しました。優勝するか2位になるかという状況がわかっていたので、とにかくピットアウト後のウォームアップに集中しようと思っていました。ライバルのペナルティは残念でしたが、こうして勝つことができてチームのみんなに感謝したいです。

TGR TEAM Deloitte TOM'S 37



昨日のポールポジションが偶然ではなかったと証明できた。

チーム監督 ミハエル・クルム

優勝することができてすごく嬉しいです。トップを争っていたライバルにペナルティが出たという運もありましたが、レースを振り返ると終始速さがありました。右京は難しい状況の中で2スティントを走りきってくれて、ジュリアーノもしっかりとリードを守ってくれました。



2人のドライバーが頑張ってくれて、出来すぎの内容でした。

レースエンジニア 大立 健太

2スティント目に小さなトラブルが発生して、予想以上に苦しい展開になりました。その中でも笹原選手が必死に耐えてくれて最終スティントに繋いでくれたのは大きかったと思いますし、ジュリアーノ選手も追われる展開のなかでしっかりと頑張ってくれました。

Summary



チームオーナー
館 信秀

今回の37号車は予選から流れに乗れていたというのが、ひとつの勝因だと思います。決勝レースでは相手のペナルティがあってトップに返り咲いたラッキーはありましたけど、運も実力のうちです。今回はミスやトラブルもなく、良い仕事をしてくれました。特にドライバーの2人はこの優勝で吹っ切れて、さらに頑張ってくれるのではないかと期待しています。予選でのポールポジションも嬉しかったですが、優勝も飾ることができて信じられないという気持ちです。

これで37号車も燃料リストラクターが入って厳しい戦いになっていきますが、次戦も精一杯頑張りますので、引き続きたくさんの応援をよろしくお願いいたします。

Race Scene



Deloitte.

BINGO

